森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1208
令和８年11月

林野庁 近畿中国森林管理局

大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎
TEL 050-3160-6763
https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/



イチョウ（大阪市内）

トピックス：「箕面体験学習の森」（箕面国有林　エキスポ '90 みのお記念の森）の活動（箕面森林ふれあい推進センター）

ニュース：石川森林管理署、島根森林管理署、企画調整課

花草木：コスモス

我が署のスタッフ：山口森林管理事務所

森林事務所等紹介：波賀森林事務所（兵庫森林管理署）

国有林最前線：京都大阪森林管理事務所

トピックス

「箕面体験学習の森」（箕面国有林　エキスポ '90 みのお記念の森）の活動

【箕面森林ふれあい推進センター】

箕面（みのお）国有林（箕面市）を含む大阪府北部や兵庫県南東部の里山林は、炭の中でも最高級とされる「菊炭（池田炭）」を生産するために、木材の計画的な利用を行う輪伐（りんばつ）※1 や伐採後の萌芽を促進する高い位置での伐採で生まれる台場（だいば）クヌギ※2など、昔から人々と深い繋がりのある里山林でした。



台場クヌギ（川西市黒川）



菊炭（池田炭）

※1：輪伐とは、森林をいくつかの区画に分け、一区画ずつ順番に伐採を行い、森林資源を継続的に利用する方法。

※2：台場クヌギとは、菊炭の材料として10年ごとに、地上1m程度のところで伸びた幹の伐採を繰り返し、主幹がずんぐりとなったクヌギのこと。

また、この地域は、生物の棲みやすい豊かな環境が広がっているため、「日本三大昆虫生息地（高尾山（東京都）・貴船山（京都府）・箕面山（大阪府））」のひとつとして知られています。

しかし、戦後の電気・ガスの普及や建築用材の生産を目的とする拡大造林が行われ、スギ・ヒノキなどの人工林が増加した結果、かつての里山林は姿を消していきました。

こうした背景を踏まえ、当センターでは、展望台周辺のヒノキの伐採跡地へ、クヌギやコナラなどの落葉広葉樹を植栽・転換することで、オオクワガタに代表されるようなたくさんの昆虫が生息できる、台場クヌギのある里山林の再生「オオクワガタの棲める森づくり」に取り組んでいます。



2010年（平成22年）展望台付近



2026年（令和8年）展望台付近

2010年～2011年（平成22～23年）には、「里山再生と生物多様性の向上を目指す市民参加型の森づくり活動」として、箕面市内の小学校などで育てた苗木を、園児・小学生・一般募集の参加者で植栽しました。



2010年（平成22年）　園児による植樹



2010年（平成22年）　記念植樹除幕式

その後も、クヌギやコナラを植栽した子供たちによる下刈り体験や日本森林ボランティア協会による保育作業、シカ柵の設置・点検・補修など、継続した森林整備を進めています。

平成 22 年、記念植樹除幕式に併せて高木の人工林を伐採したことで、多様な植物を観察することができる場へと変化し、現在では、五感で自然を学べる体験型フィールドとして活用しています。



ボランティアによる森林整備



自然を学ぶ学習会

今後、平成 22 年～ 23 年にかけて植栽したクヌギなどの成長に伴い、樹冠が擦れ合う状況となっていることから、除伐の実施やクヌギの有効利用が課題となっています。

このような取り組みの中で、箕面の森では四季を通して多様な生きものに出会えます。鳥類では、春にはキセキレイやヒガラ、夏にはホオジロやアオゲラ、秋にはコゲラやメジロ、冬にはエナガやシジュウカラなどが見られます。また、昆虫では、ミヤマクワガタやショウジョウトンボをはじめ多数の昆虫類を観察することができます。園内にはビオトープも整備されており、アカハライモリやモリアオガエルなどの姿を見ることもできます。

エキスポ 90′ みのお記念の森内の「体験学習の森」では、自然再生の取組により、多様な植物・生物などが息づいています。紅葉の季節にあわせて森林内を散策すれば、自然の魅力をより深く体感できる、充実した一日をゆったりと過ごすことが出来ます。

この秋は、箕面の山で、からだ全体で自然を感じてみてはいかがでしょうか。

園内の生き物たち



キセキレイ



ホオジロ



コゲラ



エナガ



ミヤマクワガタ



ショウジョウトンボ



キンモンガ



モリアオガエル

【箕面森林ふれあい推進センター：近畿中国森林管理局】

ホーム > 近畿中国森林管理局へようこそ > 森林管理局の概要 > 箕面森林ふれあい推進センター

URL：https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/index.html

能登半島地震・奥能登豪雨被災地における地域共創型森林再生の取組を実施しました。

【石川森林管理署】

令和８年10月17日（土）、輪島市三井町で、石川県や輪島市、石川県立大学、森林組合、漁業関係者、地元住民、石川森林管理署職員など90名を超える参加者が、能登半島地震・奥能登豪雨の被災地における地域共創型森林再生の取組を実施しました。

当日は、石川県立大学の柳井特任教授による講話を通じて、里山と里海のつながりや森林再生の重要性について理解を深めました。その後、参加者はコナラなどのどんぐり採取を行い、昨年度採取した種子から育てた苗木の植樹や、次年度の植栽に向けた苗床づくりに取り組みました。



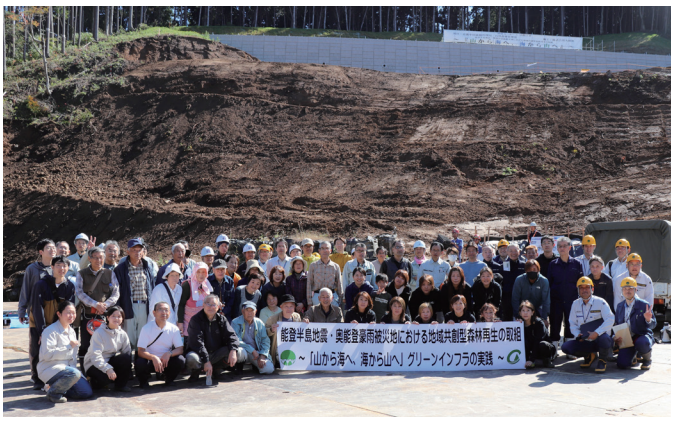
どんぐり拾いの様子



１年間育苗した苗を植樹する参加者

参加者は協力しながら作業を進め、森林整備の大切さを体感しました。

石川森林管理署では、今後も森林再生を通じて安全・安心な地域づくりに貢献していきます。



参加いただいた皆様

第46回「さんべ祭」に参加しました。

【島根森林管理署】

令和８年10月３日（土）、「第46回さんべ祭SUNSUNビレッジ2026～地域の魅力発信ブースinさんべ」にブース出展しました。当日は、「国立三瓶青少年交流の家開所50周年記念式典」も開催され、多くの来場者でにぎわいました。



島根森林管理署のブース

当署のブースでは、のこぎりを使った丸太切り体験を実施し、子どもから高齢者まで幅広い世代の方々に参加していただきました。参加者は職員の指導を受けながら真剣な表情で丸太切りに挑戦し、思うように切れず苦戦する人や、上手に切り進めて達成感を味わう人など、それぞれに体験を楽しんでいました。切り取った丸太の輪切りは記念品として持ち帰っていただきました。



丸太切り体験の様子

島根森林管理署では、こうした体験活動を通じて木や森林を身近に感じてもらい、森林の持つ大切な役割への理解促進と、三瓶山（さんべさん）をはじめとする国有林のPRに引き続き取り組んでいきます。

未来の森を支える担い手を育てる ー林業大学校等にフォーカスー 兵庫県立森林大学校

【企画調整課】

近畿中国森林管理局と管内の林業大学校等 11 校で構成する林業大学校等協議会を設置し、森林・林業の次代を担う人材の育成・確保に取り組んでいます。

各校では森林・林業のプロの育成を目指し、学生達が知識・技術の習得に汗を流しています。各校をリレー形式で学生の日常や取組などをご紹介しています。

デジタル技術を取入れたスマート林業により新時代を切り拓く。全国の林大生に期待される役割の一つが、その担い手になることです。

そこで、兵庫県立森林大学校では、兵庫森林管理署等の協力のもと、地上型レーザスキャナを使った森林調査の実習を取り入れています。

また､スマート林業に欠かせないドローンについては､１年次に操作方法を、２年次に自動航行・オルソ加工の方法を学ぶカリキュラムを組んでいます。

本校では、SNS（QR コード参照）でこうした授業の様子を配信していますので、是非、ご覧下さい。





兵庫森林管理署の協力による森林計測学実習（現地調査・パソコン処理）の様子

学生募集情報やオープンキャンパス開催日程等は、兵庫県立森林大学校ホームページをご覧ください（QR コード参照）。個別説明会も、随時、申込み可能です。

ホームページ

Instagram

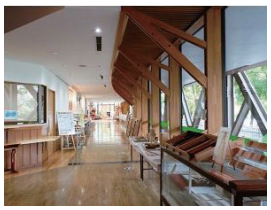
You Tube

森林大学校ＰＶ

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎１階）





【技術普及課】

○ギャラリーの展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html

【箕面森林ふれあい推進センター】

○フォトギャラリーは、箕面の森に棲む生き物たちの写真を掲載しています。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

ホーム＞ 近畿中国森林管理局へようこそ＞ 森林管理局の概要＞ 箕面森林ふれあい推進センター ＞フォトギャラリー

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/digcam/syashin.html

【森林技術・支援センター】

○技センニュース（活動報告）は、実施済みイベントのレポートを、年度ごとに掲載しています。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

ホーム ＞森林管理局へようこそ＞ 森林管理局の概要＞ 森林技術・支援センター＞ 技センニュース

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/g_center/information.html



花草木

【コスモス】

コスモス（学名：Cosmos）は、キク科コスモス属の植物の総称です。

コスモスの花は、ピンクや白に加えて濃赤、黄やオレンジ色、複色が登場し、年々カラフルになっています。

性質はいたって丈夫で、日当たりと風通しがよい場所であれば、あまり土質を選ばずに育ちます。

日本の秋の風物詩となっているコスモスは、コスモス・ビピンナツス（Cosmos bipinnatus）という種類です。

原産地はメキシコで標高 1600m 以上の地域に自生し、日本と同様に、秋になると道路わきや休耕地で、ピンクやまれに白い花を咲かせて群生するのが見られます。



大阪市内の公園で見つけたコスモスの花です

コスモスの全体の花言葉は「調和」「謙虚」「乙女の真心（乙女の純潔）」です。

我が署のスタッフ　山口森林管理事務所

石本　珠哉（いしもと　しゅうや）（令和７年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

現在、私は森林育成担当として、造林及び保護事業の発注事務から完了検査（監督業務を除く）、森林病害虫等被害発生時の局への報告、森林事務所（森林官）及び造林事業に関する物品の管理等の業務に携わっています。今年度から初めて事業の設計に携わっていますが、数値を算出するまでの工程や計算内容を検算することで、設計業務への理解が深まりました。また、設計結果の算出過程を確認することで、その信頼性に対する認識も高まりました。



OJT で林道除草機を運転中

【職場の雰囲気は？】

気さくで包容力のある上司が多いので、若手職員が過度な緊張感を抱くことなく、分からないことを気兼ねなく相談できる風通しの良い職場です。私自身も新規採用の頃に、明るく話かけてくださった上司のおかげで、適度な緊張感を持って業務に取り組むことができました。

【林野庁の魅力は？】

携わることができる担当や仕事の種類が非常に幅広いことです。本庁の業務から各事務所の現場業務等、多岐にわたる業務を「多様な勤務機会」という制度等を通じて経験できます。

現在、採用から２年目を迎え、今後の業務に期待を膨らませています。

森林事務所等紹介

波賀森林事務所（兵庫森林管理署）
森林官　江間　薫（えま　かおる）

波賀（はが）森林事務所は、兵庫県中西部の宍粟市波賀町の国有林 11 団地 6,040ha、官行造林地 9 団地 445ha を管轄しています。その面積は兵庫森林管理署の管理全域の約 34%、波賀町の森林面積の約 41%と一事務所としては、非常に大きな区域を担っています。

波賀町は古くから林業が盛んな地域であり、昭和初期には国有林から大量の木材を産出し、「大阪営林局のドル箱」と呼ばれるほど林業発展に大きく貢献してきました。

当森林事務所の特徴として、「天然スギ」、「森林鉄道」が挙げられます。

波賀町では中世からたたら製鉄が行われていたことから、かつては天然スギを主体とした針広混交林が形成されていました。赤西（あかさい）国有林には、現在でも直径 2 mを超える天然スギが生育しています。

また、近年では、音水（おんずい）国有林の波賀森林鉄道が注目を集めています。大正時代に敷設され、昭和 43 年に廃止された中音水線は、橋梁やレール跡などの遺構が今なお確認できる希少性と地域住民の保全活動が評価され、令和 6 年に産業遺産学会「推薦産業遺産」に認定されました。

波賀森林事務所は現在も林業振興としての果たす役割が大きく、毎年、多くの素材生産事業が実施され、昨年度は約 6,600 m^3 の木材を生産しました。今年度は当初 7,500 m^3 の生産を計画していましたが、入札不調の影響を受けながらも 3,200 m^3 の生産を目標に監督業務に取り組んでいます。

さらに、森林官の業務は森林管理だけにとどまりません。中学生の職場体験の受け入れをはじめ、地元高校や森林大学校の課外授業、インターンシップなどの環境教育活動への支援も重要な役割の一つです。

森林官の業務を通して地域と国有林をつなぐ支援ができればと考えています。



天然スギ



森林鉄道　　橋脚



車輪・レール跡



木材生産　土場に積まれた木材



生産事業の検査



環境教育支援

シリーズ『国有林最前線！』

令和8年6月の大雨への対応

京都大阪森林管理事務所

近年、気候変動の影響による極端な大雨の発生頻度が増加しているところですが、京都大阪森林管理事務所管内でも、令和８年６月24日～27日にかけ、停滞した梅雨前線に向かって台風７号、８号から暖かく湿った空気が流れ込み、京田辺で６月の観測史上１位を更新するなど京都・亀岡、山城中部・南部を中心に大雨となりました。この大雨により京都市内の国有林では、10箇所において被害額1.2億円の山地災害が発生し、特に京都市北区の神山（こうやま）国有林では、複数の沢から土砂が民地に流れ込む被害が発生しております（写真１）。



（写真１）神山国有林被災状況

幸い人的被害や家屋被害はありませんでしたが、当所では、災害発生直後の26日から速やかに所員総出で被害状況の現地確認を行うとともに、国有林から家屋に土砂が流れ込んだ箇所では、職員や臨時職員が、土砂撤去や土嚢積み等の作業（神山国有林において延べ日数14日・延べ人数42人）を行いました（写真２）。



（写真２）土砂処理状況

また、多量の土砂が流出し、重機による土砂撤去が必要となった２箇所については、事業体と応急対策に関して緊急的に契約を結んだうえで、27日から重機による土砂撤去を行い（写真３、４）、現在は森林管理局と共に恒久対策に向けた作業を進めているところです。

さらに他の機関が対応する箇所についても、国有林が隣接する複数の箇所において、土地の境界の確認、地元からの要望対応・説明、他の機関との事業調整も必要となりました。



（写真３）応急対策実施前



（写真４）応急対策実施後

京都大阪森林管理事務所管内の国有林は、人家・寺社・観光地などが近接した所にも多く分布しており、山地災害等の発生時には、被害程度に関わらず速やかな対応を求められることが多々あることから、引き続き緊張感をもって災害対応にあたってまいります。